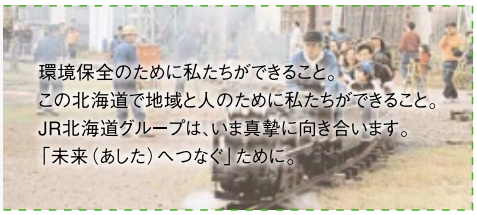
未来（あした）へつなぐ

【環境への取組み】



環境保全のために私たちができること。
この北海道で地域と人のために私たちができること。
JR北海道グループは、いま真摯に向き合います。
「未来（あした）へつなぐ」ために。

文＝本間 吾里砂

ノーレジ袋運動にエコトレーの導入…。資源の節約とゴミ排出量の削減を実現した『ジェイ・アール生鮮市場』

平成十二年四月、札幌市北区に第一号店が誕生し、その後、札幌市内に四店舗、札幌近郊に二店舗がオープンしたジェイ・アール生鮮市場は、北海道ジェイ・アール・フレッシュネス・リテールが運営する食料品中心のスーパーマーケットです。

オープン当初より環境負荷の低減を目指してきた同社では、平成二十年五月一日から「ノーレジ袋運動」に取り組んでいます。これは、ジェイ・アール生鮮市場で買い物をした際、マイバッグなどを持参し、レジ袋を辞退した場合に限り、合計金額から二円を引くというもの。レジ袋の有料化をはじめ、それぞれの形でマイバッグの持参を奨励している競合店も少なくありませんでしたが、開始直後のレジ袋辞退率は三十六・一パーセントと当初予想していた二十パーセントを大きく上回る結果となりました。すっかり浸透した現在は六十八・七パーセント（四月末）にまで達しています。ノーレジ袋運動に続いて同じ年の十月にはマイバッグの販売をスタート。低価格の設定だったこともあり、当初は全店舗あわせて月平均で八百～一千枚と驚異的な枚数を売り上げました。現在も月平均三十～五十枚とコンスタントに売れています。平成二十一年七月にはお客さまの要望に応え、マイレジカゴバッグを販売。以来、こちらも月平均四十～五十個を販売しています。

こうした取り組みは全国的な傾向とも言えますが、同社ではそれ以前からレジ袋の軽量化を図り、段階的に環境保全を意識した活動を進めてきました。トレーについても各店舗に専用のリサイクルボックスを設置し、回収に努めています。次の段階として、平成二十年九月から通常より薄くて軽いエコトレーを導入し、資源の節約とゴミ排出量の削減に貢献しています。

また、スーパーにとって毎日大量に出る生ゴミも頭の痛い問題でした。“それらを有効活用できないだろうか…”。そう考えた同社では、百パーセント再利用化を目的に完全分別を実現。ゴミに関する取り組みは、従業員の意識改革にもつながり、相乗効果として衛生管理面も向上しました。

現在は札幌市内二店舗で透明トレーの回収を実験的に行うなど、次なる展開を模索しています。

『ジェイ・アール生鮮市場』は市内に5店舗、札幌近郊に2店舗を展開。
その名の通り、“安くて新鮮”とお客さまの評判は上々

ノーレジ袋運動を奨励する店内放送のほか、ポスターなども貼られている

トレーの回収量は全店あわせて年間約4,500kg